

◆2021年11月第1週の墓前礼拝奨励

■日時：2021年10月24日（日）10：30－11：30

■場所：第二高尾霊園

■奨励題：「あなたがたをわたしのところに迎えよう。」

■聖書：ヨハネによる福音書第14章1－3節

■讃美歌：298「やすかれわがこころよ」・320「主よみもとに」

私が立川教会に赴任して以来、神様の御許に召された方は次の方々です。Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさんです。その中で、DさんとEさんは教会員ではありませんで

したが、ご遺族が教会での葬儀を希望され、役員会と私はその願いを受け入れました。立川教会の扉は、キリスト者としての歩みを全うされた方の葬儀においては、教会員であるか否かを問わず開かれているからです。

信仰を持って人生を歩むことが、どれほど大切かを思います。

先日、八高線沿線のある駅に行って来ました。知人ががんの再発を告げられ、学生時代に触れたキリスト教の教えに向き合いたいと希望していることを知ったからです。

語り合う中で、その方は、中高大学とキリスト教主義の学び舎で過ごしたことを聞き、又、その方を教えた大学の教員で私も良く知っている方がいることが分かり、早速、その教員が書いた数冊のキリスト教に関わる本を送りました。

先月、久しぶりに会った私の長男も、キリスト教への想いを語っています。彼はまだ信仰を持つに至っていないのですが、コロナ禍におけるリモート中心の仕事の中で、朝早くから、途中自由になる時間が昼食を取る時の30分しかない会議の続く日々を送り、真実に心の安らぎを得ることの大切さを覚えたようでした。

信仰を持つと言うことは、自分が、神様によって命が与えられ、生かされていることを知ることです。己の力で思うがままに人生を生きるのではなく、自分は神様によって命が与えられ、歩む道は神様によって備えられ、その備えられた道を見出して歩むことが人生を生きることであることを知ることです。

私たちは霊的な存在です。

どんなに頑強な肉体を持っていても、又、どんなに物質的に恵まれた生活を送ることが出来ていても、心の何処にか虚しさがあることを知っています。魂の寂しさ、飢え渴きとも言えると思います。しかし、それは、私たちが神様と出会うために、神様が用意を下さっている場所です。心の飢え渴きを覚えるそのような時にこそ、私たちは神様の呼びかけを聴き、神様に出会うことが出来ます。造られた存在である私たちが、造り主である神様を知る時です。

ここに眠る信仰の先達たちは、神様の独り子であるイエス様と出会い、イエス様が背負われた十字架の意味を知り、信じました。そして、その教えに従い、地上での走るべき行程を走り終え、イエス様が用意を下さった御許にある部屋の用意が出来、召されて行きました。今、この地上での旅路を続けている私たちも、神様によってそれぞれに備えられた道をしっかりと踏みしめながら、走るべき行程を走り終えたいと思います。

神様は、私たちの進む道を常に導き、憐れみ、祝福して下さいます。

祈りましょう。